

WOWOW

番組リリース

2011.12.02発行 No.2012-1852

ドキュメンタリー

ノンフィクションW 50,000vs1 ～サッカー国際審判員
魂のジャッジ～1月13日(金)夜 10:00 **WOWOW**
プライム

『人的ミスも試合の一部である』ブラッターFIFA会長。許容されるミスと、減らす努力、プレッシャーとの戦い。サッカー国際審判員・西村雄一を通して描くサッカーと審判

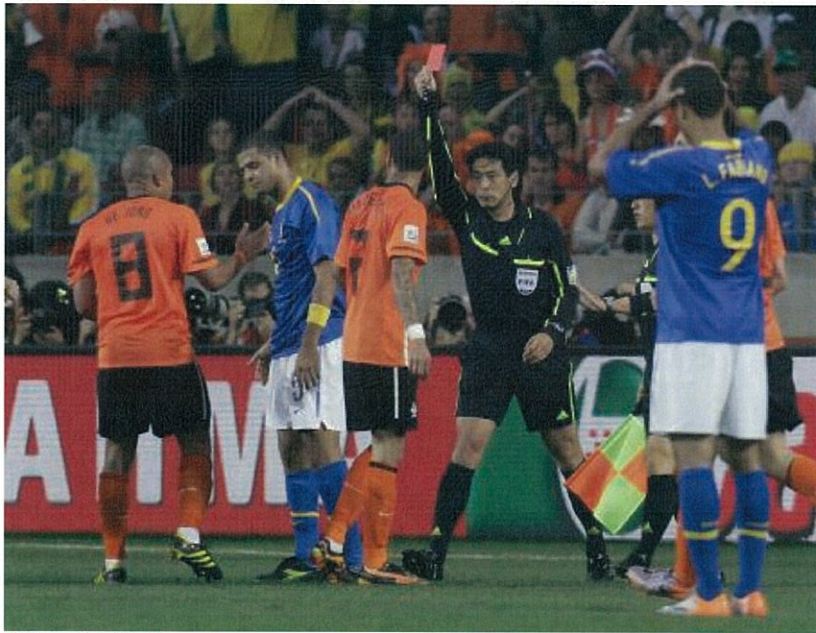


写真:ロイター/アフロ

“微妙な判定”。多くのスポーツ競技がビデオなどの機械判定を導入する中、サッカーは試合の流れを重視するため、人の手による審判を続けている。人が裁くが故に“微妙な判定”が生まれる。『人的ミスも試合の一部である』とブラッターFIFA会長は言う。サッカーの国際審判員は大きなプレッシャーに向き合う仕事だ。W杯など、数万人の観客の見守るスタジアムで試合を裁く。

サッカーW杯2010年南アフリカ大会でも重要な試合を裁いた国際審判員・西村雄一。

ミスを減らし、精神的重圧をコントロールするために、彼が取り組んでいることは…？ 世界の第一線で戦う、西村たち国際審判員の姿を通して、サッカーと審判について、掘り下げる。

<番組解説>

レッドカード。50,000人の観衆が見つめる中、1人笛を持つ、主審・西村雄一。サッカーW杯2010年南アフリカ大会 準々決勝オランダvsブラジル戦、優勝候補同士が対戦する荒れた試合、彼は退場者を出した。(カードを出す瞬間に)「冷静になるのがわかった」と西村は振り返る。大音量のブブゼラを聞き続けるなどのメンタルトレーニングの成果だった。

番組では、3年間毎日計測しFIFAに提出する心拍数データで、「冷静になった瞬間」を証明するとともに、プレッシャーに負けないよう精神力を鍛え、肉体を磨く、審判員の姿を追う。西村や他の審判員、選手、関係者へのインタビューや、スポーツジャーナリスト・二宮清純の視点で切り込む、知られざる審判の世界。機械による判定を否定し、「人の審判」にこだわるが故に生まれるサッカーの様々なドラマ。サッカーが許容する審判のミスと、ミスを減らすための審判の努力。サッカーと審判とは…。

出演:西村雄一(サッカー国際審判員)、二宮清純(スポーツジャーナリスト)、相楽享(サッカー国際審判員)、佐藤隆治(サッカー国際審判員)ほか

●新規・追加登録の方はこちら→<https://prgnews.wowow.co.jp/>

●番組写真・資料のお問い合わせ先:Tel. 03-4330-8155 Fax. 03-4330-8156(情報センター)

*都合により、番組タイトル、内容、放送日時を変更する場合があります。